



大阪城公園平和FW&水上バスツアー 2/21 市教組 NEXT

2月21日、市教組NEXT企画第3弾「大阪城公園平和FW&水上バスツアー」を開催しました。当日は陽春を思わせる暖かさの中、大阪城周辺の戦跡巡りや梅林見物、アクアライナー乗船などの盛りだくさんの活動を行い、たくさんの学びがありました。

ガイド役の橋口哲さんは現在、市教退の事務局長を務め、ピースおおさかの展示企画にも関わられた「15年戦争研究会」の会員でもあります。橋口さんは「ピースおおさかに見学に来る前に指導者が展



示物についてある程度の知識を持っておくことが大事」と仰っていました。大阪大空襲についての展示が中心ですが、戦時中や戦後の国民生活、戦争の様子を描いた市民の絵など、立ち止まって考える材料はたくさんあります。中でも一番大切にしてほしいのは「時の庭」の見学だと説明されました。時の庭は大阪大空襲で犠牲になられた約1万5000人を追悼する場であり、犠牲者の「名」を記録する活動は、「数を語るのではなく、一人ひとりの名前を探すべきだ」という思いで故伊賀孝子さんらによって取り組み、現在は大阪府が引き継いで9159人が登録されています。名前には朝鮮人や中国人の名も刻まれ、多くの国の市民を巻き込んだ戦争であったことがわかります。広場のタイルは約1万5000個で、大阪府の子どもたちが制作したものです。大阪大空襲は8回にわたったことから、それを象徴する鐘が8個設置され、見学者が思いを込めて鳴らしています。



その後、大阪城周辺の戦跡を歩いて巡りました。この地一帯はかつては大阪砲兵工廠と呼ばれ、東洋一の武器や弾薬の生産工場であったこと、天守閣の横にある堅牢なドイツ風建築は今や観光スポットとなっているが、かつては第四師団司令部が置かれ、関西方面の軍事拠点であったことなどを解説していただきました。さらに歩を進め、JR環状線の森ノ宮～京橋の区間はなぜ高架ではなく地上に線路が敷かれているのかについて触れられ、「理由はやはり戦争です。軍需搬送のため、大砲などの大型装備を森ノ宮から平地で降ろして、工廠専用線にスイッチバックで接続して運搬していたのです。大型輸送のための最適化だったのです。」さ

らに「戦後直後には砲兵工廠跡の鉄材が“お金になる”との噂で河を渡って採取する人が現れ、鉄材を巡って警察の摘発と取り締まりが行われた。一方で闇流通や軍の備品の大量横流しも組織的に行われた。戦後に住宅や職を失った人々がここに集まって暮らしていたのです」と説明がありました。最後に、いわゆる「幕切れ空襲」と言われる8月14日の京橋空襲で亡くなられた方々を祀った慰霊碑（京橋南口）を訪れました。「激しい空襲を受け、京橋周辺のガード下へ多くの人々が避難されたが、そこに1トン爆弾が4発程落とされた。確認できているだけでも210の方が亡くなられた。毎年8月14日には、近隣の小学校の子どもたちが飾りなどを奉納して慰霊しています。」との説明がありました。

実際に現地を訪れて、自分の目で確かめて学ぶことは大切です。地元の町を知ることが、子どもたちへ語ることにつながり、平和学習にも繋がります。「また各学校で平和学習に取り組まれる機会があれば、ぜひ声をかけてください。一時間はしゃべれますよ！」と最後までご健談な橋口さんでした。

☆次回のNEXTは「学級開き入門」4月5日(日)10時～12時半教育会館東館 講師 丸岡慎弥さん(立命館小学校教諭)です。ぜひご参加ください!

「認め合う、つながる、笑い合う」～いっしょにフェスタ～



2月14日、女性部が浪速区民センターで「いっしょにふえすた2026」を開催しました。反戦平和や反核、障がい者など社会的弱者とされる人々との共生や海外の紛争被害者への支援などあらゆる人権課題に取り組んでいる友誼団体も参加し、それぞれに交流を深めました。今年のテーマは「認め合う、つながる、笑い合う」で、組合員や友誼団体が一堂に会する交流の場となりました。ゲストの大森暁さん(フィットネスジムNinaru代表)からは、自分

のからだの“声”を聞き、誰かに称賛されるためではなく、自分を大切にするための体作りやメンテナンスを大事にしてきたことで、ジム参加者が相手のことも大事にできるようになってきたとのお話が印象的でした。講演では、「ちがいを力に変える社会へ」と題し、ご自身の活動や出会ってきた人々のエピソードを交えながら、多様性の本質や地域における共生の可能性について語られました。フィットネス体験を通じて、体も心もほぐれたひとときでした。



来年度へ向けて～第427回 中央委員会～

2月26日、大阪市教育会館東館にて第427回中央委員会を開催しました。冒頭、三谷委員長があいさつで「衆議院選は厳しい闘いとなったが、与党は憲法改悪、非核三原則の見直し、武器輸出、スパイ防止法など、市民・国民が求めているものと全く違うものを打ち出している。市教組として、教え子を再び戦場に送らないため、諦めずに声を上げ続けましょう」と呼びかけました。

続いて中松書記長より経過報告と当面の闘争方針の提案がありました。来年度の大阪市教育費関連予算にも触れ、「現場の声が反映される施策でなければならない。施策を実際にやりこなすのは現場の教職員。実態を聞かせてください」との提起がありました。続いて、吉川副委員長から組織確立基金会計の支出に関する件、2026年度4・5月分組合費に関する件、2026年度一般会計4・5月分暫定予算に関する件が提案されました。討論には5人の方が参加し、採決では原案が圧倒的賛成の下で可決承認されました。



議長降壇の挨拶で東部支部・藤原中央委員より「南小学校では、児童の約64%が外国にルーツを持ち、4年生の担任クラスでは68%にのぼります。日本語が話せない転入生も多く、日々の指導や行事運営に苦労しながらも、子どもたちの温かい姿勢に支えられてきました。言葉の壁によるトラブルもありますが、通訳支援を活用し、丁寧な対話を重ねています。多様な背景を持つ子どもたちの未来のために、今できる支援を続けたいと強く感じています」と多文化共生教育への思いを語っていただきました。

【北部支部 北稜中分会 辻野中央委員】

1月24日、北部支部・女性部の共催で「シン☆元気アップフェスタ」を開催し、活気に満ちた交流の場となりました。会場は天満駅前のピンポンパーで、卓球台やダーツ、テレビゲーム、ボードゲームなどが設置され、参加者は自由なスタイルで楽しみました。各分会の現状報告や交流も活発に行われ、新たな仲間づくりの機会にもなりました。北部支部は今後も学習会や交流会を通じて組織の発展をめざす方針です。



【西部支部 南津守小分会 松本中央委員】

1月10日、大阪朝鮮中高級学校での学習会に参加しました。わたしの小学生時代に朝鮮文化と出会った原点の地。教員となった今、「なぜ当時、こうした学びがなかったのか」との思いが、現在の取り組みの原動力となっています。勤務校では、隣接する南大阪朝鮮初級学校との交流がコロナ禍を経て再開。子どもたちの発表会での交流を通じ、互いの理解が深まりました。制度の不備や差別の現状を学ぶ中で、今後も支援と連帯を広げていきます。



【女性部 阪南小分会 平岡中央委員】

女性部では3つの取り組みを行いました。12月6日、育休復帰を支援するカムバック・セミナーを開催し、復帰後の働き方や制度について学びました。次に2月6日、手話学習会を実施。「世界が一つになるまで」の手話歌を通じて手話に親しむ一方で、表現の受け止め方にも配慮が必要と学びました。2月14日のいっしょにフェスタではストレッチを通じて自分の体と対話するワークショップを行い、安心安全の大切さを実感しました。

【事務職員部 玉造小分会 宮尾中央委員】

事務職員部は2月9日、専門部交渉を実施し、事務主任の時間外勤務の多さや育児・介護との両立支援の必要性を訴えました。また、アナログ業務が多く残る現場の実態を踏まえ、システム再編への積極的な参画を求めました。共同学校事務室の人員配置や役割についても、市教委の責任を追及し、組合員の生活を守る取り組みをすすめています。電話の通話録音装置や音声ガイダンスの課題についても、現場の声を反映した改善を求めています。



【南部支部青年部 桑津小分会 高嶋中央委員】

市教組NEXTは10月に発足し、現在の登録者は約70名です。2月には天満ピンポンパーでのNEXT交流会や大阪城フィールドワークを開催し、支部を超えた交流が深まりました。特に大阪城FWでは戦争と平和について学び、対話の大切さを再認識しました。また、南部支部青年部と事務職員部の合同レクも実施し、貴重な交流の場となりました。今後も取り組みを通じて仲間を増やしていきたいです。



執行委員退任のあいさつ ご支援ありがとうございました！

花立 和代 執行委員 通算6年間、本部執行委員としてお世話になりました。多くの方々との出会いがあり、人とのつながりがとても大事だと思えた期間でした。また、本部にいて確かな情報が入り、そこから自分が勤務する学校の動きを考えると、校内で協議したりすることもできました。今後も、北部支部の執行委員として活動を続けていきます。北部支部の各分会が様々な交流を通して情報共有も、つながりを深めていけるようにしていきたいと思っています。いろいろお世話になり、ありがとうございました。

谷口 宇宙 執行委員 執行委員としての3年間、校務の都合で十分に関われない場面もありましたが、多くの学びを得ることができました。特に、ICT機器の活用による勤務時間の超過について要求交渉で発言した経験は、現場の声を届ける意義を改めて実感する機会となりました。この3年間で得た経験やつながりは大きな財産です。今後は東部の執行委員として、現場の声を大切にしながら精一杯努めてまいります。これまで支えてくださった組合の皆さまに心より感謝申し上げます。